山口市文学碑巡り No7（嘉村礒多生家―帰郷庵）

県庁前の国道新９号線を宮野方面に行き、仁保入口交差点を右折して県道 375 号線を進み、**道の駅「仁保の郷」**手前、仁保川に架かる橋を左折して、脇を流れる仁保川に沿って進むと 10 分余りで石垣を高く築いた**嘉村礒多の生家**に行き当たります。山口市街地から凡そ 17 ㎞。嘉村礒多は**明治 30 年生まれ**の小説家で**旧制山口中学に明治 44 年に入学した我々の先輩で**す。彼の一期先輩に**岸信介**、二期後輩に**佐藤栄作**が在籍していました。尤も礒多は **4 年生で中退**していますが、卒業しておれば 21 期生（？）だったと思われます。仁保上郷地区の豪農の家に生まれキリスト教や浄土真宗の門を敲き懊悩する若き日を過ごしながら小説家を志して“私小説”を発表しています。彼の若き日の生活は、実家に妻子を残し中村女学校（現中村女子高）の裁縫助手の女性と駆け落ちして上京する奔放な生活で、作品を読んでいくと、実家に残してきた妻子と駆け落ちしてきた女性との間の葛藤で、自己を見つめる厳しい自己批判とそこから生じる自己嫌悪とで息苦しくなってしまいます。妻と正式に離婚した後、一旦郷里に帰り再び上京し、結核性腹膜炎を患い**昭和 8 年、36 歳**で生涯を閉じました。彼の生家が**帰郷庵**として仁保に残っており山口市の管理で**古民家生活体験施設**として開放されています。今年の３月、岩波文庫から**嘉村礒多作品集**が出版されています。

生家全景　　生家の庭

庭の隅に立つ「嘉村礒多生誕地碑」

（76 期　厚東　一生）